

「北海道一周鉄道旅行 (6)」

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所

田中 千尋 Chihiro Tanaka

かつて、鉄道旅行の楽しみは食事でした。特に北海道の場合、ほぼすべての特急列車に食堂車が連結されていて、北海道の雄大な風景を眺めながら「北海定食」や「イカのホッポー焼き」など、温かい名物料理を楽しめました。



(画 ; C.Tanaka)

これは特急「北斗号」「北海号」「おおぞら号」「オホーツク号」などに連結されていた食堂車「キシ 80 型気動車」です。低い窓の部分が食堂、窓の高い部分が調理室でした。業務用の出入口も備わっています。



「特急北海号の食堂車」(画 ; C.Tanaka)

食堂車には調理員さん 2 名、ウエイトレスさん 2 名、会計担当さん 1 名の、通常計 5 名の方が乗務していました。しかし、利用客の減少、人件費や材料費の高騰、車両の老朽化などで次々と廃止され、現在北海道でも食堂車を連結して列車は存在しません。しかも車内販売すらないので、非常に物足りない気がします。

もう一つの「食事」が駅弁です。北海道には有名な「ご当地駅弁」がいくつも存在していました。



その一つが森駅の駅弁です。かつての森駅では、列車が到着すると、ホームに「立ち売り」の駅弁屋さんが大声をあげていました。急行列車は窓が開くし、停車時間もそれなりに長かったので、座席で駅弁を買えたのです。今の特急列車は窓は開かず、停車時間も 30 秒ほどなので、たとえ立ち売りがいても、ほぼ買えないでしょう。



しかし森駅前には、その駅弁屋さんが健在です！



駅弁の名はズバリ「いかめし」です。超有名な駅弁の一つなので、ご存知の方も多いと思います。



駅弁屋さんのご主人（柴田さん）に許可をとって、写真を撮らせてもらいました。いかめしは「イカの姿煮」に「もちごめの味付け飯」を詰めた、素朴な駅弁です。「その日のうちに食べる用」と保存のきく「真空パック」がありました。私はその日のうちに食べる予定だったので、そっちを求めました。



パッケージのデザインも素朴です。「元祖」と書いてあるのは、類似商品がたくさん販売されているからです。私はこの森駅の元祖が一番だと思います。



大沼公園で「ほっけフライのサンドイッチ」を食べてしまったので、このいかめしはかばんに入れて、あとで食べることにしました。小さく見えますが、中身

は隙間なくぎっしりです。大きさの割にはずっしりと重く、食べごたえ抜群なのです！



駅に戻りましたが、やはり閑散としています。駅員さんはいるのですが、ダイヤが間遠なので、列車が来ない時間帯は窓口も閉まっています。



私は跨線橋に上って、駅構内を眺めてみました。この日はあまり天気が良くなかったのですが、遠くに「駒ヶ岳」が霞んで見えました。



私が乗る予定の「特急北斗」の前に、長万部（おしやまんべ）行の普通列車が入ってきました。たった1両で、海が見えなければ八高線小川町のホームのようです。この列車も乗降客0かな〜？と心配していましたが、幸い5、6人の人が降りて、森駅のホームは「ラッシュアワー」になっていました。